

1. 略歴

- 1999年3月 東京大学文学部言語文化学科英語英米文学専修課程 卒業 学士（文学）
1999年4月 東京大学大学院人文社会系研究科日本文化研究専攻日本語日本文学専門分野 修士課程 入学
2002年3月 同 修了 修士（文学）
2002年4月 東京大学大学院人文社会系研究科日本文化研究専攻日本語日本文学専門分野 博士課程 進学
2007年3月 同 単位取得退学
2007年4月 日本学術振興会特別研究員（PD）（～2008年3月）
2008年4月 東京大学大学院人文社会系研究科日本語日本文学講座 助教（～2010年3月）
2009年10月 東京大学大学院人文社会系研究科日本文化研究専攻日本語日本文学専門分野 博士課程 修了
博士（文学）
2010年4月 実践女子大学文学部国文学科 講師（～2013年3月）
2011年4月 実践女子大学大学院文学研究科国文学専攻 講師（～2013年3月）
2013年4月 実践女子大学文学部国文学科・大学院文学研究科国文学専攻 准教授（～2018年3月）
2018年4月 実践女子大学文学部国文学科・大学院文学研究科国文学専攻 教授
2022年4月 東京大学大学院人文社会系研究科 准教授

2. 主な研究活動

(1) 博士論文

『佐藤春夫研究』博士（文学）、2009年10月、東京大学

(2) 単書

『佐藤春夫と大正日本の感性 「物語」を超えて』鼎書房、2019年3月、428p.

(3) 単編著

『佐藤春夫読本』勉誠出版、2015年10月、399p.（口絵、pp.6-18、pp.30-196、pp.381-382を執筆）

『梶井基次郎「檸檬」を含む草稿群—瀬山の話—実践女子大学蔵』武蔵野書院、2019年11月、341p.（pp.179-284の翻刻、pp.297-331の解説を執筆）

『梶井基次郎「檸檬」のルーツ—実践女子大学蔵「瀬山の話」』武蔵野書院、2019年11月、278p.（pp.171-245の翻刻、pp.261-282の解説を執筆）

『多田基旧蔵内田百閒書簡・写真集（実践女子大学所蔵優品録三）』、2011年5月、98p.（pp.1-4の口絵解説、pp.6-98の翻刻を執筆）

『佐藤春夫台湾小説集 女誠扇綺譚』佐藤春夫著、中公文庫、2020年8月、317p.（「編者解説 植民地に行く旅人の目」 pp.303-317を執筆）

『佐藤春夫中国見聞録 星／南方紀行』佐藤春夫著、中公文庫、2021年6月、349p.（「編者解説 無謀で無類の中国旅行」 pp.328-346を執筆）

(4) 共編著

『大学生のための文学トレーニング近代編』河野龍也、佐藤淳一、古川裕佳、山根龍一、山本良編、三省堂、2012年1月、237p.（「はじめに」 pp.1-2、佐藤春夫「女誠扇綺譚」 pp.63-66、田山花袋「少女病」 pp.95-98、樋口一葉「たけくらべ」 pp.161-164、トレーニングシート5・7・12を執筆）

『大学生のための文学トレーニング現代編』浅野麗、小野祥子、河野龍也、佐藤淳一、山根龍一、山本良編、三省堂、2014年6月、299p.（三島由紀夫「卒塔婆小町」 pp.36-37、藤枝静男「空気頭」 pp.190-191、古井由吉「円陣を組む女たち」 pp.208-209、トレーニングシート2・10・11を執筆）

『私 から考える文学史 私小説という視座』井原あや・梅澤亜由美・大木志門・大原祐治・尾形大・小澤純・河野龍也・小林洋介編、勉誠出版、2018年10月、492p.（pp.165-189を執筆）

『文豪曾經來過 佐藤春夫與百年前的臺灣』河野龍也、張文薰、陳允元編、衛城出版、2020年8月、241p.（pp.26-40を執筆）

(5) 論文

「「自我」の明暗—佐藤春夫の〈詩〉と初期小説—」『国語と国文学』第81巻第1号、2004年1月、pp.45-58

- 「佐藤春夫の詩情とハーン―「田園の憂鬱」と〈詩人〉ハーンのアニミズム」『国文学（解釈と教材の研究）』第49巻第11号、2004年10月、pp.129-135
- 「ハーンにおける視聴覚描写の意義」『へるん』2004年特別号、2005年3月、pp.83-86
- 「佐藤春夫「五月」から『田園の憂鬱』へ―（祈禱）を描くという戦略―」『国語と国文学』第83巻第8号、2006年8月、pp.44-56
- 「佐藤春夫「女誠扇綺譚」論―或る〈下婢〉の死まで―」『日本近代文学』第75集、2006年11月、pp.103-118
- 「佐藤春夫『田園の憂鬱』成立考―（芸術的因襲）の位置づけをめぐる―」『東京大学国文学論集』第4号、2009年3月、pp.121-136
- 「佐藤春夫が描いた中国：『南方紀行』と廈門の1920年」『日本学研究：2009年上海外国語大学日本学国際論壇紀念論文集』、2009年11月、pp.209-213
- 「ハーンの視聴覚描写と日本理解―紀行・怪談から『日本―一つの解明』まで」平川祐弘・牧野陽子編『講座小泉八雲 II ハーンの文学世界』、新曜社、2009年11月、pp.328-339
- 「佐藤春夫『南方紀行』の中国近代（一）―作家が見た軍閥割拠の時代―」『実践国文学』第79号、2011年3月、pp.43-60
- 「消えない足跡を求めて―台南酔仙閣の佐藤春夫―」『実践国文学』第80号、2011年10月、pp.69-84
- 「歴史と文学のはざま―佐藤春夫『南方紀行』と民国初期軍閥動向」『日語教学的本土化研究―2011年上海外国語大学日本学国際論壇紀念論文集』、2012年10月、pp.353-357
- 「佐藤春夫『南方紀行』の中国近代（二）―漳州訪問先のこと―」『実践国文学』第82号、2012年10月、pp.26-45
- 「佐藤春夫「女誠扇綺譚」と港の記憶―再説・禿頭港と酔仙閣―」『実践女子大学文芸資料研究所年報』第32号、2013年3月、pp.270-291
- 「佐藤春夫『南方紀行』の路地裏世界―廈門租界と煙草商戦の「愛国」」『アジア遊学』167、2013年8月、pp.150-160
〔中国語訳〕「佐藤春夫《南方紀行》的里巷世界（王淨華・呉光輝訳）『鼓浪屿研究』第9輯、2019年3月、pp.191-203
- 「佐藤春夫『南方紀行』の中国近代（三）―東熙市と鄭享綬―」『実践国文学』第84号、2013年10月、pp.50-67
- 「佐藤春夫の台湾滞在に関する新事実―台南酔仙閣と台北音楽会のこと―」『実践国文学』第85号、2014年3月、pp.33-42
- 「紀行から批評へ―佐藤春夫が台湾を描くとき―」張季琳編『日本文学における台湾』、中央研究院人文社會科學研究中心、2014年10月、pp.63-85
- 「太宰治「返事」論―はにかむ〈無頼派〉の自家撞着―」『太宰治研究』22、2014年6月、pp.152-161
- 「疎開者」佐藤春夫の“敗戦”―詩稿が語るもの』『日本近代文学』第91集、2014年11月、pp.167-175
- 「檸檬」を生んだ偉大な“失敗”―梶井基次郎「瀬山の話」筆草稿が語るもの』『武蔵野文学』第62集、2014年12月、pp.1-6
- 「めくら草紙」論―犠牲の「マツ子」と見えない「読者」』『太宰治研究』24、2016年6月、pp.135-144
- 「言語体験としての旅 佐藤春夫の「台湾もの」における「越境」』『跨境/日本語文学研究』第3号、2016年6月、pp.83-95
〔韓国語訳〕「언어체험으로서의 여행 : 사토 하루오 (佐藤春夫) 의 타이완물 (台湾もの) 에 있어서의 일경」
『동아시아의 일본어 문학과 문화의 번역, 번역의 문화 (東アジアの日本文学と文化翻訳/翻訳文化)』역락、2018年2月、pp.67-85
- 「佐藤春夫の台湾滞在に関する新事実（二）―土地資料を活用した台南関連遺跡の調査―」『実践国文学』第90号、2016年10月、pp.24-44
- 「佐藤春夫『南方紀行』の中国近代（四）―筆談が生んだ「誤解」―」『実践国文学』第91号、2017年3月、pp.54-71
- 「女誠扇綺譚」の廢屋―台南土地資料からの再検討―」河野龍也・蔡維鋼共著『成蹊国文』第50号、2017年3月、pp.11-26（内単著部分 pp.14-26）
〔中国語訳〕「女誠扇綺譚」の廢屋―從臺南土地資料的重新探討（蔡維鋼訳）國立臺灣文學館編『回眸凝望・開新頁』〈臺灣文學史料集刊〉第7輯、2017年8月、pp.62-90（内単著部分 pp.70-90）
- 「佐藤春夫笔下的厦門―围绕现场的未经历和创作的风景（佐藤春夫が描いた厦門―体験の現場と創作の風景をめぐる―）：杜海懷訳』『鼓浪屿研究』第6輯、2017年5月、pp.106-119
- 「詩人」と小説家の肖像―保田與重郎と蓮田善明が描く佐藤春夫 奥山文幸編『蓮田善明論 戦時下の国文学者と（知）の行方』、翰林書房、2017年9月、pp.200-211
- 「ハーンと大正日本の想像力―佐藤春夫の場合―」『へるん研究』第3号、2018年3月、pp.55-63

- 「画家の眼をした詩人の肖像—佐藤春夫「田園の憂鬱」論—」『日本近代文学』第98集、2018年5月、pp.162-177
- 「佐藤春夫の台湾滞在に関する新事実（三）—新資料にもとづく旅行行程の復元—」『実践国文学』第94号、2018年10月、pp.94-113
- 「告白の相手は誰か—佐藤春夫の〈詩〉と〈私小説〉」井原あや・梅澤亜由美・大木志門・大原祐治・尾形大・小澤純・河野龍也・小林洋介編『「私」から考える文学史：私小説という視座』、勉誠出版、2018年10月、pp.165-189
- 「『檸檬』の忘れ物—その秘められた起爆力—」河野龍也編『梶井基次郎「檸檬」を含む草稿群—瀬山の話—』、武蔵野書院、2019年11月、pp.297-341
- 「佐藤春夫と白話小説—『玉簪花』の試行—」山口直孝編『講座 近代日本と漢学』第6巻（漢学と近代文学）、戎光祥出版、2020年4月、pp.191-208
- 「梶井基次郎「檸檬」を含む草稿群の生成—佐藤春夫と「惑乱挿話」—」『国語と国文学』第97巻第5号、2020年5月、pp.44-57
- 「『南方紀行』：佐藤春夫の厦門印象と身份认同（『南方紀行』：佐藤春夫の厦門の印象とアイデンティティ：熊娟訳）」『东北亚外语研究』第8巻第2期、2020年6月、pp.44-52
- 「大正作家佐藤春夫の特質與臺灣觀—「失去」的描寫觀點（大正作家・佐藤春夫の特質と台湾觀—「喪失」を描く視点：蔡維鋼訳）—」河野龍也・張文薰・陳允元編『文豪曾經來過佐藤春夫與百年前的臺灣』、衛城出版、2020年8月、pp.26-40
- 「『鷹爪花』は青く花咲く—佐藤春夫の台湾滞在に関する新事実—」『実践国文学』第98号、2020年10月、pp.66-78
- 「異界の語り方—三島由紀夫による内田百閒論—」『三島由紀夫研究』第21号、2021年4月、pp.37-46
- 「佐藤春夫『南方紀行』の中国近代（五）—「集美学校」の青いバラ—」『実践国文学』第100号、2021年10月、pp.78-96

(6) 書評・学界展望

- 「教育と教科書—「書く」ことによる対話—」『昭和文学研究』第66集、2013年3月、pp.98-100
- 「佐久間保明著『残照の日本近代文学 一九二〇年前後』」『国文学研究』第71集、2014年6月、pp.40-43
- 「紀要にみる電子化の進展と研究動向」『文学・語学』第211号、2014年12月、pp.47-51
- 「張文宏著『佐藤春夫と中国古典—美意識の受容と展開—』」『昭和文学研究』第71集、2015年9月、pp.72-74
- 「西原大輔著『日本人のシンガポール体験—幕末明治から日本占領下・戦後まで—』」『昭和文学研究』第76集、2018年3月、pp.237-239
- 「坂口周著『意志薄弱の文学史—日本現代文学の起源—』」『実践国文学』第93号、2018年3月、pp.53-56
- 「日高佳紀・西川貴子編『建築の近代文学誌 外地と内地の西洋表象』」『日本近代文学』第101集、2019年11月、p.333

(7) 解説・資料紹介・調査報告

- 「新資料・佐藤春夫創作ノート（翻刻）—信州佐久・疎開生活の一端—」『実践女子大学文学部紀要』第54集、2012年3月、pp.1-19
- 「J.E.デベッカー『不夜城』の性格とその材源」『実践女子大学文芸資料研究所 別冊年報』13、2012年4月、右 pp.9-10
- 「展覧会「百閒先生面白帖」—龍之介戯画と多田基あて書簡—（展示品概要）」『実践女子大学文芸資料研究所 別冊年報』13、2012年4月、pp.41-64
- 「佐藤春夫、台湾で居候になる—インタビュー・東照市一家の記憶から—」『実践女子大学文芸資料研究所 年報』第33号、2014年3月、pp.278-301
- 「谷崎潤一郎自筆「老後の春」について」『実践女子大学文芸資料研究所 別冊年報』14、2014年3月、pp.113-118
- 「『瀬山の話』草稿解説」『特別展「よみがえる身体性の記憶—「檸檬」草稿（瀬山の話）など—」展示図録』、2014年10月、pp.7-29、37-39
- 「批評の原点—江藤淳における〈私〉」井原あや・梅澤亜由美・大木志門・大原祐治・尾形大・小澤純・河野龍也・小林洋介編『「私」から考える文学史：私小説という視座』、勉誠出版、2018年10月、pp.365-366
- 「『女誠扇綺譚』的臺南地圖—醉仙閣與禿頭港的鬼屋（『女誠扇綺譚』の台南地図—醉仙閣と禿頭港の幽霊屋敷：蔡維鋼訳）—」『関：文學』〈台湾文學館通訊〉第67期、2020年6月、pp.59-65
- 「実践女子大学近代作家資料選 梶井基次郎葉書 宇賀康宛（全集未収録）」『実践国文学』第100号、2021年10月、pp.1-2、pp.211-217
- 「実践女子大学近代作家資料選② 芥川龍之介書簡 佐藤春夫宛（全集未収録）」『実践国文学』第101号、2022年3月、pp.1-7、pp.46-50
- 「佐藤春夫関係日記翻刻（一）—明治三十七年春夫日記・大正元年秋雄日記—」『実践女子大学文芸資料研究所 年報』第41号、2022年3月、pp.129-194

『春夫文学の揺籃期にせまる—佐藤春夫・夏樹・秋雄日記の価値』『実践女子大学文芸資料研究所 別冊年報』15、2022年3月、pp.451-462

(8) 項目執筆

『メディアから見た太宰治』安藤宏編、『国文学（解釈と教材の研究）』第47巻14号、2002年12月、『文学界』p127、『展望』p132

『日本の小説101』安藤宏編、新書館、2003年6月、「徳田秋声「あらくれ」」pp.38-39、「中勘助「銀の匙」」pp.50-51、「三島由紀夫「金閣寺」」pp.138-139、「高橋和巳「悲の器」」pp.160-161、「加賀乙彦「宣言」」pp.186-187

『現代詩大事典』安藤元雄・大岡信・中村稔監修／大塚常樹・勝原晴希・國生雅子・澤正宏・島村輝・杉浦静・宮崎真素美・和田博文編、三省堂、2008年2月、「秋庭俊彦」p14、「内野健児」p96、『詩原』pp.275-276、『太鼓』p391、「間野捷魯」pp.619-620、「三木天遊」p627、「村松武司」p652、「森山啓」pp.666-667、『楽園』p710、「渡部信義」p727

『日本語文章・文体・表現事典』中村明・佐久間まゆみ・高崎みどり・十重田裕一・半沢幹一・宗像和重編、朝倉書店、2011年6月、「西条八十「懈怠」」p604、「佐藤春夫「海辺の恋」」p605、「堀口大学「母の声」」p622

『名歌名句大事典：歳事・人・自然』久保田淳・長島弘明編、明治書院、2012年7月、「久米正雄」p32、p148、「佐藤春夫」p34、「久保田万太郎」p49、p67、p383、「荻原井泉水」p69、pp.117-118、p142、p151、p187、p246、p371、pp.770-771、「志田素琴」p71、「内田百閒」p131、p258、p294、「室生犀星」p186、p200、p233、「塚本邦雄」pp.249-250、p333、p373

『丹羽文雄文藝事典』秦昌弘・半田美永編、和泉書院、2013年3月、「女は怖い」p85、「還らぬ中隊」p88、「気紛れの線」pp.96-97、「魚紋」pp.97-98、「恋文」p108、「柔媚の人」p125、「ファッション・モデル」p176、「庖丁」pp.181-182、「街の草」p186、「襪の匂い」p196

『いきものがたり』山田有策・近藤裕子編、双文社出版、2013年4月、「西班牙犬の家」pp.56-57

『坊っちゃん事典』今西幹一企画／佐藤裕子・増田裕美子・増満圭子・山口直孝編、勉誠出版、2014年10月、「切り下げ」pp.35-36、「博多」pp.80、『一夜』pp.118-120、「夏目小兵衛直克」p176、「「不言之言」」p185

『近代文学草稿・原稿研究事典』日本近代文学館編、八木書店、2015年2月、「梶井基次郎」pp.177-180

(9) 翻訳・座談録・講演録

『闇にひとすじの光—中島敦の「名人伝」（ポール・マッカーシー）』ポール・マッカーシー／オクナー・深山信子『世界のなかの中島敦』、せりか書房、2009年12月、pp.28-35

『座談会「ことばと映像、そして内田百閒の文学のことなど」』『実践女子大学文芸資料研究所 別冊年報』13、2012年4月、pp.18-29（パネリスト：金井田英津子・栗原敦・河野龍也）

『特別企画「百閒先生の思い出」—新資料・第二十一回摩訶陀会録音テープ翻刻—』『実践女子大学文芸資料研究所 別冊年報』13、2012年4月、pp.30-40（パネリスト：多田杉彦・多田毅・金井田英津子・栗原敦・河野龍也）

『二人の夏子—樋口一葉と伊東夏子—』『実践女子大学文芸資料研究所 年報』第35号、2016年3月、pp.160-229

『シンポジウム 佐藤春夫没後50年企画「佐藤春夫と〈憧憬の地〉中国・台湾」展に寄せて』『むささびブックス』4、2016年10月、pp.34-78（内35-50頁は単独報告）

(10) 学会発表

日本台湾学会第4回学術大会、「佐藤春夫の台湾紀行—作品世界の重層性と批評性の由来と」2002年6月8日、於名古屋国際会議場

ハーン松江国際シンポジウム、「ハーンにおける視聴覚描写の意義」2004年10月1日、於松江市総合文化センター
東京大学国語国文学会、「佐藤春夫の〈風流〉と〈詩〉と」2005年4月23日、於東京大学

ソウル大北京大韓国文学国際学術研討会、「普遍性としての伝統主義—佐藤春夫『田園の憂鬱』論」2007年10月19日、於北京大学

北東アジアにおける日本学研究フォーラム、「近代作家のアジア紀行に見る〈文明批評〉の方法論—佐藤春夫を中心に」2007年10月21日、於北京外国語大学日本学研究中心

2009年上海日本学研究国際フォーラム、「佐藤春夫が描いた中国：『南方紀行』と廈門の1920年」2009年6月13日、於上海外国語大学

『日本文學中的臺灣』国際学術研討会、「紀行から批評へ—佐藤春夫が台湾を描くとき」2011年10月7日、於中央研究院

2011年上海外国語大学日本学研究国際フォーラム、「歴史と文学のはざま—佐藤春夫『南方紀行』と民国初期軍閥動向」2011年11月19日、於上海外国語大学

吉原と浮世絵に関するプレシンポジウム、「J.E.デベッカー『不夜城』の性格とその材源」2011年12月3日、於日本浮世絵博物館

国際シンポジウム 戦間期東アジアにおける日本語文学 1920～1945、「佐藤春夫『南方紀行』と煙草商戦の「愛国」」2012年9月9日、於龍谷ミュージアム

絵入本学会ワークショップVI、「(デザイン)の黎明期—明治・大正の挿絵と美術」2014年7月6日、於同朋大学

佐藤春夫没後50周年国際シンポジウム、「佐藤春夫が語らなかつた台湾・福建—残された足跡から作品を読む」2015年1月31日、於新宮市福祉センター

「湖湘文化与东亚交流」国際学術研究会、「芥川龍之介「湖南の扇」の中国観—佐藤春夫との比較から」2015年8月22日、於湖南師範大学

「東アジアと同時代日本語文学フォーラム」台湾大会、「言語体験としての旅—佐藤春夫の「台湾もの」における「越境」」2015年11月13日、於輔仁大学

台日〈文學與歌謠〉國際學術研討會、「佐藤春夫の台湾紀行を支えた人脈—知られざる伏線・東其石」2016年6月4日、於国立台湾文学館

“东亚内部的自他认识”国際学術研究会、「佐藤春夫が描いた厦門—体験の現場と創作の風景をめぐって」2016年6月25日、於厦門大学

日本台湾学会台北定例研究会、「台湾における佐藤春夫—その人脈と訪問先の現在」2017年3月11日、於国立台湾大学

中央研究院學術座談會、「臺灣 1920 年、殖民地之旅—被人遺忘の佐藤春夫の足跡（台湾 1920 年、植民地の旅—忘れられた佐藤春夫の足跡）」2017年3月16日、於中央研究院

日本近代文学会6月例会、「佐藤春夫の芸術観と「心」の問題」2017年6月24日、於明治大学駿河台校舎

絵入本学会ワークショップX、「挿絵の中の故郷—佐藤春夫の新宮」2017年12月10日、於実践女子大学渋谷キャンパス

富山大学ラフカディオ・ハーン研究国際シンポジウム、「ハーンと大正日本の想像力—佐藤春夫を中心に」2017年12月23日、於富山大学

帝國、民國與黨國：文本、思想與意識形態的纏鬥、「作為權力的語言—佐藤春夫眼中的殖民地臺灣（權力としての言葉：佐藤春夫が描いた植民地台湾）」2021年12月9日、於中央研究院（オンライン）

国際共同研究シンポジウム「近代日本の中国都市体験(1)—内山書店・香港・厦門・基本資料」、「台湾官民の厦門視察と『南方紀行』の位置—佐藤春夫の油絵の謎—」2022年1月30日、於東京女子大学比較文化研究所・上海外国語大学日本研究センター（オンライン）

(11) 受賞

2020年3月 樋口一葉記念第28回やまなし文学賞 研究・評論部門受賞（『佐藤春夫と大正日本の感性「物語」を超えて』）

3. 主な社会活動

(1) 非常勤講師・客員研究員

2004年4月 筑波大学附属駒場中学校（～2006年3月）

2006年4月 白百合女子大学文学部国語国文学科（～2011年3月）

2010年4月 成蹊大学文学部日本文学科（～2016年3月）

2012年4月 清泉女子大学文学部日本語日本文学科（～2016年3月）

2016年4月 中央研究院（台湾）中国文哲研究所 訪問学人（客員研究員）（～2017年3月）

2017年4月 成蹊大学文学部日本文学科（～2018年3月）

2017年4月 清泉女子大学文学部日本語日本文学科（～2018年3月）

2018年9月 早稲田大学教育学部国語国文学科（～現在）

2022年4月 実践女子大学文学部国文学科（～現在）

2022年4月 実践女子大学文芸資料研究所客員研究員（～現在）

(2) 所属学会

東京大学国語国文学会（2002年～）、日本近代文学会（2003年～）、昭和文学会（2005年～）、日本文学協会（2006年～）

(3) 学会・社会活動等

2006年7月 昭和文学会 会務委員（～2009年6月）

2008年4月 東京大学国語国文学会 評議員（～現在）

2010年4月 日本近代文学会 運営委員（～2012年3月）
2012年4月 日本近代文学会 編集委員（～2014年3月）
2017年7月 昭和文学会 会務委員（～2019年6月）
2020年4月 実践女子大学文芸資料研究所 所長（～2022年3月）
2020年4月 筑摩書房 国語教科書編集委員（～現在）